

- 人間ドック受診 年間約300万人のうち「異常なし」は5%。40代以上の8割超が「軽度異常」（＝経過観察の扱い：気を付けてくださいね）だが、これは治療の対象外となります。
—— 現行の「健康保険制度」は「病気を発症してから治療を始めるシステム」なので、「軽度異常」（＝未病の段階：病気予備軍）は治療の対象外です。しかし、そのまま手当てしないでいると、遅かれ早かれ発症することになってしまいます。
- 健康診断や人間ドックの血糖値は「空腹時の測定」であり、食後の測定ではないので、「**血糖値スパイク**」が起きていることに気が付きません

このような「制度」の落とし穴は改善されず、そのため病人は増えるばかりです

- 「現代医療」（＝Modern Medicine）は、災害外傷や中毒による「救急疾患」（＝Emergency Disease）、人工呼吸／人工栄養（＝胃ろう）／人工透析による「延命治療」（＝Life-prolonging Treatment）は得意です。その一方で、**慢性の経過をたどる「生活習慣病」、つまり「慢性疾患」（＝Chronic Diseases）は不得意です。**
- 日本の医者は大学で「栄養学」（＝Nutrition）を専門的に学んでいません。そのため、「医者は栄養学を知らない」／「管理栄養士は病気を知らない」／「一般の私達は栄養学と病気の基礎知識すら持っていない」という状態になっています

急増する「現代版：生活習慣病」（＝癌／MCI・認知症／寝たきりなど）は、現代の「食環境」（＝Food Environment：栄養素の過剰 & 不足）が原因の“食環境病”（＝Food Environment Disease）という性質を色濃く持っていますが、私達はこのことを知りません

【事例研究】 国立がんセンター病理疫学部長の渡邊医師は53歳で「糖尿病」になり、担当医師から血糖値降下薬を処方されましたが、副作用が怖くて断りました。そして専門外の糖尿病を研究し、食事が大事だと分かり、ストイックに実行しました。—— 薬なしで血糖値を抑制する生活を25年やってきた経験を「糖尿病は薬なしで治せる」（2017年発行）という本を出版しました。世の中の糖尿病治療に一石を投じたのですが、全国の医者から出版社に対して「どうしてこんな本を出したのか！」と抗議の電話が多く寄せられました。クローズドな医療の世界を象徴する出来事です